一般社団法人 日本エネルギー学会
第 98 回定時総会

日　時　　2023 年 2 月 28 日（火）午後 1 時より

会　場　　学士会館（202 号室）

東京都千代田区神田錦町 3-28

TEL. 03-3292-5936（代）

議　　案

第１号議案　2022 年１月１日から 2022 年 12 月 31 日までの
事業ならびに会員状況報告の件

第２号議案　2022 年１月１日から 2022 年 12 月 31 日までの
貸借対照表，正味財産増減計算書，財産目録の承認の件

第３号議案　2023・2024 年度理事・監事選任の承認の件

第４号議案　2023・2024 年度補欠理事選任の承認の件

第５号議案　2023 年度事業計画ならびに収支予算の承認の件

一般社団法人
日 本 エ ネ ル ギ ー 学 会
JIE The Japan Institute of Energy

第 98 回定時総会ならびに関連行事

次　第

13:00～14:00　第 98 回定時総会　　(202 号室)

１．開会
２．会長挨拶
３．議案審議
４．閉会

14:00～14:15　第 1 回臨時理事会　　(203 号室+ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ)

14:20～14:50　2022 年度日本エネルギー学会表彰式　　(202 号室+ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ)

１．開会
２．選考経過報告
３．表彰楯贈呈
４．表彰委員長挨拶
５．閉会

15:00～16:30　受賞者講話　　(202 号室+ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ)

１．数値シミュレーションの援用による石炭・コークス・バイオマス等炭素質資源関連研究の進展

東北大学　青木　秀之

２．バイオマスおよび低品位炭の熱分解、ガス化および炭化に関する研究

九州大学　林　潤一郎

３．製鉄所における燃料・電力運用ガイダンスシステムの開発

ＪＦＥスチール株式会社

４．階段炉下水汚泥焼却発電システム

株式会社タクマ

５．本会の発展に対する功績

前当会会長、参与　牧野　尚夫

６．本会の発展に対する功績

元当会理事　守富　寛

16:40～17:30　特別講演　　(202 号室+ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ)

サーキュラーエコノミーの標準化と低炭素への貢献

東北大学 名誉教授　中村崇

第１号議案　2022 年１月１日から 2022 年 12 月 31 日までの
事業ならびに会員状況報告の件

１．本会事業報告

１－１　委員会、会合等

○定時総会

第 97 回定時総会を 2022 年 2 月 25 日（金）13:30 から学士会館にて開催し、次の議案について審議の上、原案どおり承認された。

第１号議案 2021 年１月１日から 2021 年 12 月 31 日までの事業ならびに会員状況報告の件
第２号議案 2021 年１月１日から 2021 年 12 月 31 日までの貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録の承認の件
第３号議案 2022 年度理事選任の承認の件
第４号議案 2022 年度事業計画ならびに収支予算の承認の件

なお、第 97 回定時総会の関連行事については、新型コロナウィルス感染拡大防止のため、第 96 回定時総会同様、例年開催している特別講演/祝賀懇親会は中止とした。表彰式および受賞者講演についてはハイブリッド開催とし、受賞者にはオンラインにてご講演頂いた。

○理事会　定例５回（1/24、3/31、6/27、9/26、12/9）、臨時３回（2/25、3/2、10/4）

（1）2021 年度第６回定例理事会　2022 年１月 24 日（月）10:00～11:30
ハイブリッド開催（於：学会事務局およびオンライン）、出席理事　16 名（理事総数　19 名）
〔審議事項〕
会長および専務理事から業務報告（12 月下旬まで）
1. 議事録 承認の件
2. 会員入退会 承認の件
3. 2022 年度理事選任の承認の件
4. 第 97 回定時総会議案 承認の件
①第１号議案　2021 年１月１日から 2021 年 12 月 31 日までの事業ならびに会員状況報告の件
②第２号議案　2021 年１月１日から 2021 年 12 月 31 日までの貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録の承認の件
③第３号議案　2022 年度 理事選任の承認の件
④第４号議案　2022 年度事業計画ならびに収支予算の承認の件
〔連絡事項〕
5. 会員増強委員会からの報告（運営要領制定）
6. 各部会、委員会、各種行事進捗報告の件
7. その他（今後の理事会スケジュール等）

（2）2022 年度第１回臨時理事会　2022 年２月 25 日（金）14:30～14:40
ハイブリッド開催（於:学士会館およびオンライン）、出席理事　15 名（理事総数　21 名）
〔審議事項〕
1. 2022 年度 副会長選任の件

（3）2022 年度第２回臨時理事会　2022 年３月２日（水）10:30～11:00
Web 開催、出席理事　15 名（理事総数　21 名）
〔審議事項〕
1. 100 周年記念式典の開催方法 承認の件

（4）2022 年度第３回定例理事会　2022 年３月 31 日（木）10:00～12:00
ハイブリッド開催（於：学会事務局およびオンライン）、出席理事　18 名（理事総数　21 名）
〔審議事項〕
会長および専務理事から業務報告（２月下旬まで）
1. 議事録 承認の件
2. 会員入退会 承認の件
3. 収支報告（２月末）の件
4. 2022 年度表彰委員長及び委員 選任の件

5. 2023・2024 年度役員候補選出委員会 設置の件
6. 2022・2023 年度支部長 選任の件
7. 規程の改訂 承認の件

〔連絡事項〕

8. 第 97 回定時総会の報告
9. 100 周年記念事業の進捗報告
10. 各部会、委員会、各種行事進捗報告の件
11. その他（今後の理事会スケジュール等）

(5) 2022 年度第 4 回定例理事会　2022 年 6 月 27 日（月）15:00～16:00

ハイブリッド開催（於：学会事務局およびオンライン）、出席理事　18 名（理事総数　20 名）

〔審議事項〕

会長および専務理事から業務報告（5 月下旬まで）

1. 議事録 承認の件
2. 会員入退会 承認の件
3. 収支報告（5 月末）の件
4. 2022 年度「論文賞」受賞者承認の件

〔連絡事項〕

5. 100 周年記念事業の進捗報告
6. 各部会、委員会、各種行事進捗報告の件
7. その他（今後の理事会スケジュール等）

(6) 2022 年度第 5 回定例理事会　2022 年 9 月 26 日（月）13:30～15:30

ハイブリッド開催（於：学会事務局およびオンライン）、出席理事　16 名（理事総数　20 名）

〔審議事項〕

会長および専務理事から業務報告（8 月下旬まで）

1. 議事録 承認の件
2. 会員入退会 承認の件
3. 収支報告（8 月末）の件
4. 規程の改訂 承認の件（表彰規程の改訂）

〔連絡事項〕

5. 100 周年記念事業の準備進捗状況について
6. 各部会、委員会、各種行事進捗報告の件
7. その他（理事会スケジュール）

(7) 2022 年度第 6 回臨時理事会　2022 年 10 月 4 日（火）

書面審議、出席理事　20 名（理事総数　20 名）

〔審議事項〕

1. 規程の改訂 承認の件（表彰規程の改訂）

(8) 2022 年度第 7 回定例理事会　2022 年 12 月 9 日（金）13:00～15:00

ハイブリッド開催（日本大学駿河台校舎 121 会議室およびオンライン）、
出席理事 15 名（理事総数 20 名）

〔審議事項〕

会長および専務理事から業務報告（10 月下旬まで）

1. 議事録 承認の件
2. 会員入退会 承認の件
3. 収支報告（10 月末）の件
4. 「2022 年度学会表彰」学会賞、進歩賞、功績賞、奨励賞 承認の件
5. 2023･2024 年度 役員候補選出 承認の件（役員候補選出委員会報告）
6. 2023･2024 年度 支部長選任 承認の件（西部支部）
7. 規程の改訂 承認の件
8. 第 98 回定時総会招集 承認の件

〔連絡事項〕

9. 100 周年記念事業の進捗状況について

10. 各部会、委員会、各種行事進捗報告の件
11. その他（今後の理事会スケジュール等）

○監事会（監査）　　1回

・2022年1月19日（水）15:00～17:00、学会事務局会議室において行われた。
2021年1月1日から2021年12月31日までの会計および業務監査
1. 2021年12月末における貸借対照表、正味財産増減計算書および財産目録の監査
2. 事業ならびに会員状況についての監査
3. 銀行預金通帳の照合

○名誉会員・参与懇談会

・例年、定時総会の日に開催しているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

○企画委員会（100周年記念事業実行委員会）　2回（3/22、9/21）

(1) 第1回　3月22日（火）15:30～17:00　Web開催
［議事内容］
1. 100周年記念行事 各部会・支部「進捗と予定」について
2. 全体企画 記念式典について
3. 全体企画 100周年記念論文（学生部門）審査について
5. その他（事務局からの連絡）

(2) 第2回　10月27日（木）13:00～15:00　Web開催
［議事内容］
1. 100周年記念事業進捗報告
・部会・支部報告
・全体企画報告
2. 「学生論文」事業について
3. 「2050年カーボンニュートラルに向けた貢献」の具体的行動案
4. ホームページの改善に向けたアンケート
5. 事務局より連絡（学会の状況について）

○総務委員会　4回　(3/16、9/13、11/17、11/25)

(1) 第1回総務委員会（3/16）書面審議
（審議事項）
1. 育児・介護休業等に関する規程の改訂について
（報告事項）
2. 職員(事務局員)の採用について

(2) 第2回総務委員会（9/13）書面審議
1. 表彰規程の改訂について

(3) 第3回総務委員会（11/17）書面審議
1. 育児・介護休業等に関する規程の改訂について

(4) 第4回総務委員会（11/25）書面審議
1. 「日本エネルギー学会機関誌えねるみくす」刊行・投稿・販売規程の改訂について

○表彰委員会　3回（5/23、7/28、11/4）Web開催

(1)本年度論文賞受賞候補者の承認（3件）（5/23）
(2)本年度選考委員の承認（7/28）
(3)本年度学会賞、進歩賞、功績賞、奨励賞受賞候補者の決定（11/4）
学会賞（学術部門）2件、学会賞（技術部門）2件、
進歩賞（学術部門）3件、進歩賞（技術部門）2件、
功績賞　2件、奨励賞　8件

・その他表彰選考委員会　11回
論文賞－編集委員会（2022/1/14、2022/2月、4/15）
奨励賞－液体微粒化部門（2021年11月上旬、2021/12/17）
奨励賞－バイオマス部門（2022/11月上旬、2022/1/21）
奨励賞－大会部門（2022/6/24、9/2）
奨励賞－石炭科学会議部門（2022/8/29、10/21）

○部会長･支部長連絡会　2022年12月9日（金）15：00～17：00

ハイブリッド開催（日本大学駿河台校舎 121 会議室およびオンライン）
・情報提供（学会の状況について）
・100 周年記念事業について（100 周年記念事業実施状況）
・各部会･支部活動について（近況、今後の予定など意見交換）

○編集委員会

・日本エネルギー学会誌編集小委員会　2 回（Web 開催　2 月、4/15）
- 投稿論文について、Web 上（J-STAGE）で最新号まで公開継続。
- 論文賞表彰について審議

・日本エネルギー学会機関誌えねるみくす編集小委員会 6 回（Web 開催 1/24、3/14、5/18、7/19、9/16、11/24）
- 特集記事および講座について、2022～2023 年度の編集計画を策定
- 100 周年記念事業関連について
- 会誌 9 月号（Annual Energy Reviews 号）の発行

○出版委員会　　2 回（Web 開催 1/17、3/29）

・「廃プラスチックの現在と未来」査読状況、題名、今後のスケジュール
※ 初版 2023 年 1 月 27 日刊行（学会、書店への納品は 2023 年 1 月初）

○大会実行委員会

・大会実行委員会 4 回（Web 開催 2021 年 12/27、2022 年 2/4、6/24、9/2）
(1) 大会開催の基本方針の検討・整理（開催形態、日程、会場）(12/27)
(2)基本事項検討（ハイブリッド、日程、会場、募集要項等）決定 (2/4)
(3)ハイブリッド開催要領確認、大会プログラム構成確認 (6/24)
(4)大会実施報告、奨励賞候補者選考、ポスター発表賞選考 (9/2)

・第 31 回日本エネルギー学会大会（2022 年 8 月 4 日、5 日）
開催場所：大田区産業プラザ PIO およびオンライン開催（参加者:262 名）
【研究発表】104 件（口頭発表 82 件、ポスター発表 22 件）
【2022 年度「論文賞」表彰式および受賞者講演】
【特別講演】
1.「家庭部門の省エネルギーの現状と脱炭素化への課題」
中上 英俊（株式会社住環境計画研究所）
【基調講演】
1.ガス化分野「炭素循環社会における炭素資源ガス化のあり方と役割」　林 潤一郎（九州大学）
2.天然ガス分野「蓄熱材としての TBAB 水和物の基礎特性」　熊野 寛之（青山学院大学）
3.新エネルギー・水素分野「水素エネルギー社会構築に向けた山梨大学の取り組みと産学官連携」
飯山 明裕（山梨大学）
4.リサイクル分野「プラスチック資源循環促進法の施行と今後の課題」
杉山 里恵（株式会社リーテム）
5.燃焼・熱利用分野「化石燃料の大量消費と環境問題を解決するための水素エネルギーキャリア戦略－工業炉でのアンモニア直接燃焼利用－」　赤松 史光（大阪大学）
6.「エネルギー学」分野「「エネルギー学」とカーボンニュートラル」　岡島 敬一（筑波大学）
7.バイオマス分野「アジアのバイオマス利用から日本のエネルギー問題を考える：資源調達とカーボンニュートラル」　小杉 昭彦（国際農林水産業研究センター）
8.石炭・重質油分野「有機資源や二酸化炭素転換反応器における現象理解とシミュレーション」
則永 行庸（名古屋大学）

○100 周年記念事業委員会　3 回（5/23、7/28、11/4）
(1)100 周年記念事業進捗確認、記念式典確認、記念論文受賞者承認、記念誌関係確認 (5/23)
(2)100 周年記念事業進捗確認、記念式典承認 (7/28)
(3)100 周年記念事業進捗確認、記念誌販売計画承認、記念事業収支承認 (11/4)

○100 周年記念事業実行委員会　2 回（企画委員会内で開催）

○創立 100 周年記念式典（2022 年 8 月 3 日）

開催場所：学士会館

〖午前の部〗

【100 周年記念表彰式】

・100 周年記念論文表彰（一般部門、中学生・高校生部門、大学生・大学院生部門）

≪一般部門≫

最優秀賞

尾羽　秀晃（一般財団法人 日本エネルギー経済研究所）
技術選択モデルによるカーボンニュートラルに向けた技術・研究開発の示唆

優秀賞

大隈　修（元公益財団法人 新産業創造研究機構/元株式会社神戸製鋼所）
脱炭素社会における化石燃料活用の最適化
―エネルギーの変遷と日本エネルギー学会への期待―

山口　一良・埜上　洋・植田　滋・長坂　徹也（東北大学）
今後の世界情勢変化に対応した日本の基幹金属素材製造業の進むべき方向性

≪中学生・高校生部門≫

最優秀賞

大城　輝真（琉球大学教育学部附属中学校）
微生物燃料電池の可能性を探る～自作は製品に勝てるか～

優秀賞

有竹　祐樹（東京都立多摩科学技術高等学校）
ＳＤＧｓへの関心向上をはかるブラウザゲームの開発
～ブラウザゲームで学ぶＳＤＧｓ～

江花　優（日本大学東北高校）
「ふくしまからエネルギーの未来を考える。」

≪大学生・大学院生部門≫

最優秀賞

島村　恵理（慶應義塾大学）
「みんな」が考え、「みんな」で持続可能な社会をつくる

前田　早陽子（津田塾大学）
持続可能社会実現に向けた政策決定者のエネルギー選好分析

優秀賞

石戸　滉河（早稲田大学）
持続可能社会実現に向けたエネルギーの将来
「自動車業界におけるドロップインバイオ燃料による脱炭素化」

栗原　佑介（慶應義塾大学大学院）
欧州データ法案にみるわが国のエネルギー政策とデータガバナンス

・100 周年記念特別表彰（功労賞・貢献賞）

功労賞

飯野　雅　（学会在籍６０年）
丸山　敏彦（学会在籍５７年）
前河　涌典（学会在籍５２年）

貢献賞

株式会社ヒロセ・ブランズ

〖午後の部〗

【会長メッセージ】一般社団法人日本エネルギー学会会長　齋藤　公児

【来賓挨拶】

経済産業省 資源エネルギー庁長官　保坂　伸
国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構　理事　和田　恭
東京工業大学　特命教授・名誉教授、当学会元会長　柏木　孝夫

【100 周年記念講演】

国立研究開発法人 産業技術総合研究所

ゼロエミッション国際共同研究センター長　吉野　彰

イノベーションによるカーボンニュートラルの実現

【100 周年記念パネル討論会】

～２０５０年カーボンニュートラル、さらにその先の未来に向けた

エネルギー・環境問題解決への貢献～

座長

公益財団法人 地球環境産業技術研究機構　理事長　山地　憲治

パネリスト

早稲田大学 理工学術院創造理工学部　教授　中垣　隆雄

電源開発株式会社　執行役員　中山　寿美枝

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所　専務理事　首席研究員　小山　堅

化学者・発明家、一般社団法人 炭素回収技術研究機構　代表理事・機構長　村木　風海

東京ガス株式会社 都市生活研究所 所長　三神　彩子

○第 18 回維持会員懇談会

新型コロナウィルスの感染拡大により開催中止

○学生のための国際会議発表支援

・新型コロナウィルスの世界的な流行により中断中

○IEA/JECC（燃焼改善と排出物低減研究日本委員会）（受託調査）

1. JECC-第 20 期第 2 回定例会議・Web 開催（10/7）

・第 20 期 1 年目収支決算、第 20 期 2 年目予算案

・IEA／TCP 会議報告および最近の状況報告

・勉強会「MCH による水素キャリア技術とそのインフラ設備」

講師：千代田化工建設(株) 長井雅史氏

１－２　刊行

○日本エネルギー学会誌「Journal of the Japan Institute of Energy」（電子版、毎月）

査読付き投稿論文（34 編）　J-STAGE に掲載

○日本エネルギー学会機関誌「えねるみくす」 6 冊発行（電子版・冊子、隔月）

特集記事／トピックス　第 101 巻　第 1 号～第 6 号　（第 5 号はアニュアルレビュー号）

１－３　部会関連

(1) 石炭科学部会

・第 59 回石炭科学会議（主催：石炭科学部会、コークス工学研究部会、重質油部会）

（10/20～21、ハイブリッド開催：札幌・道民活動センターかるで 2.7 およびオンライン、参加者：95 名）

【研究発表】

口頭発表：42 件／12 セッション

【招待講演】

「地球温暖化への挑戦～苫小牧 CCS プロジェクト」　澤田 嘉弘(日本 CCS 調査株式会社)

「微粉炭燃焼場における微粉炭粒子からの揮発分放出挙動とモデル化」

橋本 望（北海道大学大学院工学研究院）

「釧路コールマインが目指すカーボンリサイクル」　松本 裕之(釧路コールマイン株式会社)【特別講演】

「恐竜研究から私たちへのメッセージ」　小林 快次(北海道大学総合博物館)

・第 59 回石炭科学会議　第 1 回実行委員会（4/15、ハイブリッド開催：道民活動センターかでる 2.7 810 会議室 B および オンライン）

・第 59 回石炭科学会議　プログラム編成委員会（8/10、Web 開催）
・第 59 回石炭科学会議　第 2 回実行委員会（8/29、Web 開催）
・第 59 回石炭科学会議　第 3 回実行委員会（10/20、道民活動センターかでる 2.7 大会議室）

(2) コークス工学研究部会

・第 59 回石炭科学会議：石炭科学部会と共催（10/20～21）（石炭科学部会欄参照）
・第 59 回石炭科学会議　実行委員会（石炭科学部会欄参照）

(3) 重質油部会

・第 59 回石炭科学会議：石炭科学部会と共催（10/20～21）（石炭科学部会欄参照）
・第 59 回石炭科学会議　実行委員会（石炭科学部会欄参照）

(4) 天然ガス部会

［科学・反応システム分科会，資源開発・利用分科会、輸送・貯蔵分科会］

・100 周年記念シンポジウム「ガス体エネルギーのカーボンニュートラルイノベーション」
（11/2　ハイブリッド開催、参加者 30 名）
講演1 「吸着分離による大気直接回収（DAC）プロセスの開発と経済性評価」
講演者：名古屋大学　川尻喜章
講演2 「CO_2バリューチェーンとLCO2船による脱炭素化に向けた取組み」
講演者：三菱造船株式会社　田中太一
講演3 「CCS最新事業動向とInnovative Technologies」
講演者：石油資源開発株式会社　結城百代
講演4 「CO_2からのアンモニアメタネーション　～新しいメタン合成技術とそのプロセス開発～」
講演者：日揮ホールディングス株式会社　近松伸康
講演5 「INPEXの2050ネットゼロへの取組み～NEDO-CO_2メタネーション事業を通して～」
講演者：株式会社INPEX　若山樹

［科学・反応システム分科会］

・第５回 新エネルギー・水素部会シンポジウム～グリーンイノベーションへの挑戦～
(10/17)新エネルギー・水素部会主催（新エネルギー・水素部会欄参照）

［GH（ガスハイドレート）研究会］

・第 59 回 GH 研究会（3/11 Web 開催、参加者 35 名）
講演 1. セミクラスレートハイドレートの基礎物性　大島　基（産業技術総合研究所）
講演 2. 溶液構造を考慮したセミクラスレートハイドレートの過冷却抑制
町田 博宣(パナソニック株式会社)
講演 3. セミクラスレートハイドレートスラリーのガス吸収挙動と分離特性　小松 博幸（新潟大学）
講演 4. 新規液体クロマトグラフィーによる TBAB ハイドレート表面での物質吸着の評価
半田 友衣子（埼玉大学）
総合討論：セミクラスレートハイドレートの物性と応用
講演 5. Bias Breaking Workshop の結果　長久保 定雄（日本メタンハイドレート調査株式会社）
・第 60 回 GH 研究会（10/20：Web 開催、参加者 40 名）
講演 1. カーボンニュートラル下でのメタンハイドレート開発における意思決定支援に関す研究
鈴木 健也（東京大学新領域創成科学研究科）
講演 2. CCS と CO_2 ハイドレート ～古くて新しい課題～　内田 努（GH 研究会主査・北海道大学）
講演 3. 二酸化炭素水和物をシールとした CCS　大隅 多加志（JST 低炭素社会戦略センター）

［部会共通］

・合同幹事会　2回（5/20 Web開催、12/13 会議室＋Web開催併用）
- 天然ガス部会100周年記念シンポジウム（5/20）
- 2022年活動方針確認、活動実績確認、活動計画について（5/20）
- えねるみくす年間編集計画（5/20）
- 2023年活動方針確認、活動実績確認、活動計画について（12/13）

(5) バイオマス部会

・第17回バイオマス科学会議（1/19～20 Web開催）（参加者：89名）

【研究発表】

口頭発表：21 件／6 セッション、ポスター発表：14 件

【100 周年記念事業 基調講演／パネル討論会】

基調講演「炭素源としてのバイオマス利用の可能性」　松村 幸彦（広島大学）

パネル討論会「100 年前の薪炭から現在、100 年後のバイオマス」

モデレーター：山本博巳（日本エネルギー学会バイオマス部会長、電力中央研究所）

パネラー： 横山伸也（元公立鳥取環境大学)、鮫島正浩（信州大学)、坂西欣也（産業技術総合研究所)、松村幸彦（広島大学)、秋元圭吾（地球環境産業技術研究機構(RITE))、市川貴之（広島大学）

・第9回アジアバイオマス科学会議（共催：アジアバイオマス協議会）
（1/21 オンライン開催、参加者：54名）

【研究発表】

口頭発表：24 件／6 セッション

【基調講演】

Sustainability in Tropical Biomass Utilization

Prof. Dato’ Dr. Mohd Ali HASSAN (Universiti Putra Malaysia, Malaysia)

・【リサイクル・バイオマス・ガス化】三部会(RGB)シンポジウム～カーボンニュートラル社会に向けた注目分野の最新動向～（5/19 オンライン開催、参加者：58名）（リサイクル部会欄参照）

・2022年度「バイオマス夏の学校」（9/8 千葉、参加者：23名）

匝瑳市民エネルギーちば（ソーラーシェアリングによる環境調和型の市民発電，有機農業等

北総クルベジ（バイオ炭製造，有機農園）

・第10回アジアバイオマス科学会議（共催：アジアバイオマス協議会）
（11/25 ハイブリッド開催：タイ・バンヤビワット経営大学およびオンライン、参加者：79名）

【研究発表】

口頭発表：30 件／6 セッション　ポスター発表：9 件

【基調講演】

The role of Biomass and Bio-Circular-Green (BCG) in Thailand

Supattanapong PANMEECHOW (Deputy Prime Minister of Thailand)

・第18回バイオマス科学会議（11/30～12/2 ハイブリッド開催：前橋テルサおよびオンラインWeb開催）（参加者：119名）

【研究発表】

口頭発表：29 件／7 セッション、ポスター発表：25 件

【100 周年記念事業 基調講演／パネル討論会】

基調講演「グリーンイノベーションとバイオマス利活用」

石橋幸子（群馬県・知事戦略部グリーンイノベーション推進課）

パネル討論「ポスト FIT のバイオマス利活用 イノベーションと地域利活用」

モデレーター：山本博巳（バイオマス部会長，一般財団法人電力中央研究所）

パネラー：勝山 猛（フォレストエナジー株式会社）、小菅喜仁（川場村役場)、野田玲治（群馬大学）、野中 寛（三重大学）、森 一晃（バイオマス発電事業者協会）

・第22回バイオマス関連部会・研究会合同交流会「木質バイオマス発電の現状と課題」
（12/16 鹿児島大学農学部307号教室，12/17 見学会）

【主催】(公社)化学工学会エネルギー部会バイオマス分科会、(一社)日本エネルギー学会バイオマス

部会、(一社)日本木材学会バイオマス変換研究会、バイオマス利用研究会、木質バイオマス利用研究会、(一財)バイオインダストリー協会 アルコール・バイオマス研究会

【各部会・研究会活動紹介】

【講演】

1.「木質バイオマスエネルギー利用の現状と関連施策」日比野佑亮氏（林野庁林政部木材利用課）
2.「木材利用を取り巻く状況変化と木質バイオマス利用」久保山裕史氏（国立研究開発法人森林研究整備機構森林総合研究所）
3.「木質バイオマス発電事業における燃料集荷の状況について」森野博之氏（一般社団法人バイオマス発電事業者協会）
4.「鹿児島県における木質バイオマス燃料供給の実態」前田清水氏（前田産業株式会社）

【パネルディスカッション】

【見学会】

日本ガス鹿児島工場，鹿児島メガソーラー発電所，枕崎バイオマスリソース合同会社，
広葉樹燃料材生産現場見学（沢津橋薪店）

・第18回バイオマス科学会議 第1回現地実行委員会（6/17 前橋テルサ）
・第10回アジアバイオマス科学会議 実行委員会（6/7～15 メール会議）
・バイオマス夏の学校in千葉　準備委員会（5/19～6/13 メール会議）
・バイオマス部会 幹事会（8/4 大田区産業プラザPiOおよびオンライン）
・バイオマス部会 総会（8/5 大田区産業プラザPiOおよびオンライン）
・第18回バイオマス科学会議 第2回現地実行委員会（11/16 前橋テルサ）
・第18回バイオマス科学会議 第3回現地実行委員会（11/29 前橋テルサ）

(6) 新エネルギー・水素部会

・第５回 新エネルギー・水素部会シンポジウム～グリーンイノベーションへの挑戦～
（10 月 17 日 於 大田区産業プラザ PiO およびオンライン、参加：46 名）

【主催】新エネルギー・水素部会、共催：天然ガス部会 科学・反応システム分科会

【講演】

1. 産総研　福島再生可能エネルギー研究所の水素関連技術開発の紹介
古谷 博秀（産業技術総合研究所）
2. カーボンニュートラルに向けた需要の高度化 ～電化促進と水素利用～
矢田部 隆志（東京電力株式会社）
3. アルカリ水電解システムによる大規模な水素製造への取組み
磯部 安秀（旭化成株式会社）
4. カーボンニュートラル社会に向けた ENEOS の取組み　佐藤 康司（ENEOS 株式会社）
5. 液体アンモニア専焼ガスタービンの研究開発　内田 正宏（株式会社 IHI）

・新エネルギー・水素部会 幹事会２回（4/21 Web 開催、8/4 大田区産業プラザ PiO およびオンライン）
- 100 周年記念行事（4/21、8/4）
- 機関誌えねるみくすの連載講座（4/21）
- 機関誌えねるみくす 11 月号特別企画（4/21、8/4）
- 第 31 回大会特別講演（4/21）
- 今後の部会活動について（4/21、8/4）

(7) ガス化部会

・ガス化部会 幹事会７回（1/7 Web 開催、3/10 Web 開催、4/19 Web 開催、6/15 Web 開催、8/4 大田区産業プラザ PiO およびオンライン、10/11 Web 開催、12/9 Web 開催）
・リサイクル・バイオマス・ガス化三部会（RGB）シンポジウム～カーボンニュートラル

社会に向けた注目分野の最新動向～（リサイクル部会欄参照）
(5/19 Web 開催、参加人数：58 名)
・バイオマス科学会議（バイオマス部会共催、ハイブリッド開催：前橋テルサおよびオンライン Web 開催 11/30-12/2）（バイオマス部会欄参照）

(8) 燃焼部会

・「燃焼に関する講習会」～エネルギー管理士（熱分野）への第一歩～
(6/27～7/30：オンデマンド配信)（受講者：15 名）
【講習会】
1.「熱力学の基礎」　飯島 晃良（日本大学）
2.「流体工学の基礎」 飯島 晃良（日本大学）
3.「伝熱工学の基礎」 奥村 幸彦（香川大学）
4.「計測と自動制御」 神原 信志（岐阜大学）
5.「燃料と燃焼」　奥村 幸彦（香川大学）
・年次大会 燃焼・熱利用分野基調講演(8/5 大田区産業プラザ PiO, 現地および Web 開催)
テーマ:「化石燃料の大量消費と環境問題を解決するための水素エネルギーキャリア戦略　－
工業炉でのアンモニア直接燃焼利用－」(大阪大学 赤松史光教授)
・燃焼部会 幹事会（8/4 大田区産業プラザ PiO およびオンライン）
- 燃焼部会主催の行事（企業見学会の開催）および計画などについて

(9) 液体微粒化部会

・100 周年記念企画 液体微粒化部会座談会（10 月 12 日 Web 開催）
テーマ：「微粒化研究の 100 年 ―今後の発展に向けて―」
司　会：天谷賢児（群馬大学, 液体微粒化部会長）
参加者：徳岡直静氏（元慶応義塾大学)、福里克彦氏（精華デジタルイメージ（株））
鈴木孝司氏（豊橋技術科学大学)、加藤昂大氏（宇宙航空研究開発機構）
斎藤寛泰氏（芝浦工業大学)、大島逸平氏（東北大学流体科学研究所）
田中康恵氏（日本カノマックス（株))、壹岐典彦氏（産業技術総合研究所）
・第 16 回微粒化セミナー（日本液体微粒化学会と共同主催）
(11/18：東京都立産業技術研究センター　東京イノベーションハブ（参加者：32 名））
1.【解説】「微粒化の測定法と評価法」斉藤寛泰（芝浦工業大学）
2.【解説・実演】「噴霧ノズルの説明と噴霧実演」　太田　厚（(株)いけうち）
3.【トピックス】「都の産業支援に関する講演及び施設見学」東京都立産業技術研究センター
4.【機器展示と実習】「噴霧計測装置の体験実習と機器展示（干渉画像法（ILIDS), 位相ドップラ法（PDI), レーザ回折法（LDSA), 高速ビデオ撮影」(日本カノマックス（株), 西華デジタルイメージ（株), マイクロトラック・ベル（株)), (株）フォトロン）
5.【トピックス】「アンモニアの噴霧と燃焼」范 勇（産業技術総合研究所）
・第 31 回微粒化シンポジウム Thirty-firstth Symposium（ILASS-Japan）on Atomization
（日本液体微粒化学会（ILASS-Japan）と共同主催）
(12/15～16：日本大学生産工学部津田沼キャンパス 39 号館)
【研究発表】
口頭発表：31 件／8 セッション
【招待講演】
「Improvement on water flux distribution of fire sprinklers by optimizing deflector design」　Taehoon Kim (Seoul National University of Science and Technology)
・幹事会 5 回（6/10Web 開催、7/5Web 開催、9/20Web 開催、10/25Web 開催、12/22Web 開催）
- 本年度部会行事、100 周年記念事業部会事業について（6/10)

- 微粒化セミナー開催の件、えねるみくす記事協力について（7/5、10/25）
- 微粒化セミナー実施について、100 周年企画座談会について（9/20、10/25）
- 微粒化セミナー実施結果について、2022 年度実績および 2023 年度計画について （12/22）

（10）省エネルギー・消費者行動（EECB）部会

・100 周年記念行事 部会幹事座談会（4/15 Web 開催）
座談会テーマ：「100 年先のライフスタイル予測」
出席者：EECB 部会幹事６名、事務局２名
・「エネルギー学」部会・EECB 部会 合同見学会（12/19:産業技術総合研究所つくば西事業所）
・幹事会 3 回（4/1：Web 開催、8/4：大田区産業プラザ PiO、12/14：Web 開催）
- 100 周年記念行事 幹事座談会について（4/1）
- 第 31 回大会について（4/1）
- えねるみくす省エネ大賞記事について（12/14）

（11）リサイクル部会

・【リサイクル・バイオマス・ガス化】三部会（RGB）シンポジウム ～カーボンニュートラル社会に向けた注目分野の最新動向～（石炭・DX・資源循環・バイオプラスチック）
（5/19 Web 開催、参加人数：58 名）
＜講演＞
1. 空気吹き IGCC の開発・実用化 金澤 学（広野 IGCC パワー合同会社）
2. 国内におけるバイオマス小規模ガス化発電の最新の動向と課題
笹内 謙一（(株) PEO 技術士事務所）
3. 脱炭素化・循環経済を見据えた動向と AI・IOT 活用事例 小野田 弘士 （早稲田大学）
4. 我が国のプラスチックリサイクルの将来展望～ケミカルリサイクル技術を中心に～
吉岡 敏明（東北大学大学院）
5. カネカ生分解性ポリマー Green Planet の事業開発と資源循環
武岡 慶樹（(株) カネカ）
6. 高性能な生分解性バイオマスプラスチックの開発と今後の課題
岩田 忠久（東京大学大学院）
＜パネルディスカッション＞
座長：行本正雄（中部大学・日本エネルギー学会リサイクル部会長）
パネリスト：シンポジウム講師
・リサイクル部会 幹事会（3/30 Web 開催）100 周年記念行事、出版企画等協議
・リサイクル部会編集委員会（4/14 Web 開催）『廃プラスチックの現在と未来』
・リサイクル部会編集委員会（6/19 Web 開催）『廃プラスチックの現在と未来』
・リサイクル部会・幹事会（9/7,9/13 ﾒｰﾙ開催）機関誌への特集号企画について協議
・リサイクル部会 幹事会（11/28,12/1,12/5 ﾒｰﾙ開催）2023 年度活動について協議

（12）「エネルギー学」部会

・学会 100 周年 エネルギー学 20 周年座談会「エネルギー学 20 年の歩みと次の 20 年」
開催日：2022 年 6 月 13 日
形 式：オンライン
参加者：岡島敬一・司会（「エネルギー学」部会部会長、国立大学法人筑波大学）
山地憲治（初代部会長、公益財団法人地球環境産業技術研究機構）
内山洋司（第２代部会長、一般社団法人日本エレクトロヒートセンター）
坂西欣也（第３代部会長、国立研究開発法人産業技術総合研究所）
秋澤淳 （第４代部会長、国立大学法人東京農工大学）
・「エネルギー学」部会 学融合分科会セミナー「2050 年 CN に向けた太陽光発電の課題」
開催日：2022 年 12 月 5 日
形 式：オンライン

聴講者数：26 名
講演１：「日本の普及向けた課題，世界とのギャップ」
大関崇（(国研）産業技術総合研究所再生可能エネルギー研究センター）
講演２：「廃棄リサイクル関係の課題」
河本桂一（みずほリサーチ & テクノロジーズ（株）
サステナビリティコンサルティング第１部）

・「エネルギー学」政策分科会・EECB 部会合同見学会（12/19、参加人数：8 名）
場　所：産業技術総合研究所つくば西事業所
内　容：ゼロエミッション国際共同研究センター（GZR）等の見学
エネルギー・環境領域の概要説明
GZR 紹介　＜工藤祐揮　副研究センター長＞
安全科学研究部門の紹介　＜玄地裕 研究部門長＞
GZR 見学　＜太田道広 チーム長＞
エネルギープロセス研究部門見学　＜倉本浩司 グループ長＞
意見交換会

・日エネ学会機関誌えねるみくすにおける特集企画掲載　2 回
①101 巻（2022）6 号：学会 100 周年 エネルギー学 20 周年座談会「エネルギー学 20 年の歩みと次の 20 年」（執筆者：岡島敬一、山地憲治、内山洋司、坂西欣也、秋澤淳）
②102 巻（2023）2 号：「エネルギー教育の実践例」（執筆者：島崎洋一、藤本登、高木浩一、八田章光、多比良重誠）

・「エネルギー学」部会 運営委員会　4 回（2/24 Web 開催、4/21 Web 開催、8/5 大田区産業プラザ PiO およびオンライン、12/21 Web 開催）
・「エネルギー学」部会第 9 回部会総会（8/5 大田区産業プラザ PiO およびオンライン会議）

（13）若手研究者の勉強会

・実績なし

１－４　支部関連

（1）北海道支部

・日本エネルギー学会 100 周年記念講演会及び施設見学会
共催：石炭・炭素資源有効利用研究会，北海道エネルギー懇話会
開催日：9 月 8 日 講演会、9 月 9 日 見学会
講演会：於 TKP 札幌駅カンファレンスセンター（会場参加 46 名＋オンライン参加 47 名）
1. 2050 年のカーボンニュートラルに向けた国の政策について
環境省北海道地方環境事務所　統括環境保全企画官 小髙大輔氏
2. SIP 地域エネルギーシステムデザイン研究と地域エネルギー需給データベースの開発
東北大学　大学院工学研究科　技術社会システム専攻 教授 中田俊彦氏
3. カーボンニュートラルに向けた海外の最新の動向
特定非営利活動法人 環境エネルギー政策研究所（ISEP）理事 松原弘直氏
4. 日本鉄鋼業におけるカーボンニュートラルへの挑戦
日鉄総研株式会社　シニアフェロー 齋藤公児氏
見学会（参加 34 名）：苫小牧バイオマス発電（株）木質バイオマス発電所
系統側蓄電池（南早来変電所敷地内）

・総会・幹事会　オンライン開催 1 回（1/25）
・庶務幹事会（庶務幹事+支部長参加）オンライン開催 1 回（1/5）
・拡大庶務幹事会(庶務幹事+基本的に支部長と企画幹事 2 名が参加)オンライン開催 7 回(2/3、3/8、5/18、6/23、8/23、10/24、12/12)
・共催・協賛行事
日本化学会北海道支部 2022 年夏季研究発表会（7/23 オンライン開催：共催）

第 11 回エネルギー・マテリアル融合領域シンポジウム（11/17 ハイブリッド開催：協賛）

(2) 東北支部

・日本エネルギー学会 100 周年記念 東北支部令和 4 年度講演会ならびに見学会（11/24,25）

【共催】日本化学会東北支部石炭化学コロキウム

【講演会（11/25)】 於 ハーネル仙台（参加者 現地 23 名，オンライン 40 名）

1.「地球温暖化をめぐる内外情勢と日本の課題」　東京大学公共政策大学院 特任教授 有馬 純 氏

2.「再生可能エネルギーの有効利用と循環型地域社会を目指した取り組み」

(株)IHI ソリューション統括本部ソリューションエンジニアリング部 主幹 高井 紀浩 氏

3.「カーボンニュートラルに向けた JOGMEC の取り組みについて －地熱資源開発支援を中心に－」

独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構　地熱技術部技術課 課長 吉川 竜太 氏

4.「工業炉の発展と脱炭素化への取組み」　一般社団法人日本工業炉協会 専務理事 加藤 健次 氏

【見学会（11/24)】キリンビール(株)仙台工場，東北電力(株)新仙台火力発電所（参加者 24 名）

・2022 年度第 1 回役員会 4 回

・共催・協賛・後援行事

火力原子力発電技術協会東北支部 令和 4 年度技術講演会（2/24:オンライン，協賛，参加者 261 名）

秋田化学工学懇話会 第 52 回ケミカルエンジアリング交流会

(6/17：秋田市（ハイブリッド)，協賛，参加者 現地 33 名，オンライン 35 名）

学都「仙台・宮城」サイエンスデイ 2022　(7/17：仙台市，名義後援，入場者 4,983 名）

化学工学会東北支部 第 27 回東北ジョイント夏季セミナー

(9/20-21：一関市(ハイブリッド)，協賛，参加者 35 名）

火力原子力発電技術協会東北支部 令和 4 年度技術講習会（9/29：オンライン、協賛，参加者 161 名）

第 20 回石炭化学コロキウム（11/25：仙台市（ハイブリッド)，共催，現地 23 名，オンライン 40 名）

火力原子力発電技術協会東北支部 令和 4 年度研究発表会　(12/29：オンライン，協賛）

秋田化学工学懇話会 第 53 回ケミカルエンジアリング交流会

(12/9：秋田市（ハイブリッド)，協賛，参加者 36 名）

第 13 回製鉄・資源に関する Workshop（還元研究会）　(12/12-13：仙台市，共催，参加者 32 名）

(3) 関西支部

・第 38 回 関西支部セミナー ～2050 年 CO_2 排出量実質ゼロ目標への対策について～

（石油学会関西支部共催）（11/2 関西大学千里山キャンパス）（参加者：58 名）

【講演】

1. 日本製鉄のカーボンニュートラルへのロードマップ　一松 栄司（日本製鉄(株)）
2. カーボンニュートラルに向けた CO_2 利用技術の現状と課題

松岡 浩一（(国研)産業技術総合研究所）

3. 地政学からみたカーボンニュートラルの戦略

小野崎 正樹（(一財)エネルギー総合工学研究所）

4. 2010 年　九州大学と三井化学のカーボンニュートラル元年

高井 敏浩（九州大学、三井化学）

・関西支部第 67 回研究発表会（石油学会関西支部共催）

（12/2 近畿大学東大阪キャンパス）

【研究発表】口頭発表：8 件、ポスター発表：20 件

【講演】

1. 2050 年都市ガスのカーボンニュートラル化を実現する技術

～メタネーションの実用化に向けた取り組み～　横山 晃太（大阪ガス(株)）

2. SDGs 時代の化成品原料のソースは何か？　―これから求められる技術―

西山 覚（神戸大学）

3. 石油学会関西支部創立の経緯と 30 周年に思う　鈴木 俊光（関西大学）
4. カーボンニュートラルを見据えた石油分野のこれから　関根 泰（早稲田大学）

・コロキウム 2022（12/7（株)島津製作所 三条工場）（参加者：26 名）

【講演】

1. ナノ空間材料を利用した複合型触媒系　田部 博康（京都大学）
2. 格子内酸素を活用した新規な環境触媒　布谷 直義（大阪大学）

【見学会】(株)島津製作所 三条工場

・幹事会 4 回（1/26：オンライン、4/28：オンライン、7/22：オンライン、11/2：関西大学千里山キャンパス）

- 2022 年度支部人事（1/26、4/28）
- 2022 年度支部活動（1/26、4/28、7/22、11/2）

(4) 西部支部

・第 21 回九州低炭素システム研究会（参加者：68 名）
（7/6 AIM ビル 3F 会議室）（経済産業省九州経済産業局、九州大学との共同開催）

【内容】

講演 1「カーボンリサイクルの取組について」　藤原晋一（九州経済産業局）
講演 2「カーボンニュートラルに向けた CCUS の役割と課題」　板岡健之（九州大学）
講演 3「カーボンニュートラルへの化学産業のアプローチ　～バイオプラスチックの取組みから～」　佐野浩（三菱ケミカル）

・第 6 回　学生・若手研究発表会（11/14-15：琉球大学・全保連ステーション 3 階ホール）
（参加者：45 名）
口頭発表（8 件），ポスター発表（14 件），基調講演（1 件：齋藤会長），優秀発表賞授与式

・共催・協賛行事（なし）

１－５　受託調査関連

No.	テ ー マ 名	委託元	期 間	委員長
1	日本 IEA 燃焼研究－燃焼に関する省エネルギーと排出物低減	IEA 研究会維持会員	2022.6－2023.5	石間 経章

２．会員状況報告

		2021 年度末数	増（＋）	減（－）	2022 年度末数
維持会員	特級	3	0	0	3
	1 級	2	0	0	2
	2 級	2	0	0	2
	3 級	7	0	0	7
	4 級	18	0	0	18
	5 級	79	0	1	78
小　計		**111**	**0**	**1**	**110**
名誉会員		18	0	2	16
正 会 員		1,133	106	142	1,097
小　計		**1,151**	**106**	**144**	**1,113**
賛助会員		93	7	11	89
合　計		**1,355**	**113**	**156**	**1,312**

≪ご参考≫正会員におけるシニア会員・学生会員の構成比率（小数点以下四捨五入）

2018 年度末（1,266 名）シニア会員　222 名（18%）、学生会員　139 名（11%）
2019 年度末（1,257 名）シニア会員　224 名（18%）、学生会員　154 名（12%）
2020 年度末（1,163 名）シニア会員　210 名（18%）、学生会員　120 名（10%）
2021 年度末（1,133 名）シニア会員　211 名（19%）、学生会員　119 名（11%）
2022 年度末（1,097 名）シニア会員　204 名（19%）、学生会員　131 名（12%）

２０２２年度事業報告　附属明細書

2022 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、作成しない。

第２号議案　２０２２年１月１日から２０２２年１２月３１日までの貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録の承認の件

貸借対照表

2022年12月31日現在

一般社団法人日本エネルギー学会

（単位：円）

科　　目	(A) 当年度	(B) 前年度	(A－B) 増　減
Ⅰ　資産の部			
１．流動資産			
現金預金	41,145,019	47,701,064	△ 6,556,045
売掛金	1,946,188	390,591	1,555,597
未収金	1,631,100	1,291,400	339,700
前払金	388,080	583,929	△ 195,849
棚卸資産	1,616,821	1,565,327	51,494
立替金	△ 3,880	1,207	△ 5,087
流動資産合計	46,723,328	51,533,518	△ 4,810,190
２．固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産引預金	200,000	200,000	0
基本財産合計	200,000	200,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引預金	4,600,800	4,155,800	445,000
会費補填引預金	9,500,000	9,500,000	0
特定資産合計	14,100,800	13,655,800	445,000
(3) その他固定資産			
電話加入権	30,550	30,550	0
借室保証金	3,488,000	3,488,000	0
その他固定資産合計	3,518,550	3,518,550	0
固定資産合計	17,819,350	17,374,350	445,000
資産合計	64,542,678	68,907,868	△ 4,365,190
Ⅱ　負債の部			
１．流動負債			
未払金	172,290	364,890	△ 192,600
前受金	0	847,000	△ 847,000
預り金	549,072	398,189	150,883
未払法人税等	70,000	70,000	0
未払消費税等	402,187	439,402	△ 37,215
流動負債合計	1,193,549	2,119,481	△ 925,932
２．固定負債			
退職給付引当金	4,600,800	4,155,800	445,000
固定負債合計	4,600,800	4,155,800	445,000
負債合計	5,794,349	6,275,281	△ 480,932
Ⅲ　正味財産の部			
１．指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
２．一般正味財産	58,748,329	62,632,587	△ 3,884,258
（うち基本財産への充当額）	(200,000)	(200,000)	(0)
（うち特定資産への充当額）	(14,100,800)	(13,655,800)	(445,000)
正味財産合計	58,748,329	62,632,587	△ 3,884,258
負債及び正味財産合計	64,542,678	68,907,868	△ 4,365,190

貸借対照表内訳表

2022年12月31日現在

一般社団法人日本エネルギー学会

（単位：円）

科　　目	実施事業会計	その他事業会計	法人会計	合計
Ⅰ　資産の部				
1．流動資産				
現金預金	△ 187,654,848	70,775,877	158,023,990	41,145,019
売掛金	202,299	1,743,889	0	1,946,188
未収金	0	0	1,631,100	1,631,100
前払金	0	0	388,080	388,080
棚卸資産	681,000	935,821	0	1,616,821
立替金	0	0	△ 3,880	△ 3,880
流動資産合計	△ 186,771,549	73,455,587	160,039,290	46,723,328
2．固定資産				
(1) 基本財産				
基本財産引預金	0	0	200,000	200,000
基本財産合計	0	0	200,000	200,000
(2) 特定資産				
退職給付引預金	0	0	4,600,800	4,600,800
会費補填引預金	0	0	9,500,000	9,500,000
特定資産合計	0	0	14,100,800	14,100,800
(3) その他固定資産				
電話加入権	0	0	30,550	30,550
借室保証金	0	0	3,488,000	3,488,000
その他固定資産合計	0	0	3,518,550	3,518,550
固定資産合計	0	0	17,819,350	17,819,350
資産合計	△ 186,771,549	73,455,587	177,858,640	64,542,678
Ⅱ　負債の部				
1．流動負債				
未払金	0	172,290	0	172,290
預り金	0	68,756	480,316	549,072
未払法人税等	0	0	70,000	70,000
未払消費税等	0	0	402,187	402,187
流動負債合計	0	241,046	952,503	1,193,549
2．固定負債				
退職給付引当金	0	0	4,600,800	4,600,800
固定負債合計	0	0	4,600,800	4,600,800
負債合計	0	241,046	5,553,303	5,794,349
Ⅲ　正味財産の部				
1．指定正味財産				
指定正味財産合計	0	0	0	0
2．一般正味財産	△ 186,771,549	73,214,541	172,305,337	58,748,329
（うち基本財産への充当額）	0	0	200,000	200,000
（うち特定資産への充当額）	0	0	14,100,800	14,100,800
正味財産合計	△ 186,771,549	73,214,541	172,305,337	58,748,329
負債及び正味財産合計	△ 186,771,549	73,455,587	177,858,640	64,542,678

附　属　明　細　書

1. 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産については、財務諸表の注記において記載をしている。

2. 引当金の明細

（単位：円）

科　目	前期末残高	当期増加額	当期減少額		当期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	4,155,800	445,000	0	0	4,600,800

正味財産増減計算書

2022年 1月 1日から2022年12月31日まで

一般社団法人日本エネルギー学会

(単位：円)

科目	(A) 当年度	(B) 前年度	(A－B) 増減
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1．経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	[31,260,540]	[33,492,560]	[△ 2,232,020]
維持会員受取会費	21,550,000	21,400,000	150,000
賛助会員受取会費	1,876,000	2,014,000	△ 138,000
正会員受取会費	7,834,540	10,078,560	△ 2,244,020
事業収益	[21,224,192]	[15,607,598]	[5,616,594]
講演講習会収益	10,403,063	4,791,661	5,611,402
分析収益	2,669,480	2,435,400	234,080
100周年記念事業収益	130,000	0	130,000
安息香酸収益	2,943,600	3,690,720	△ 747,120
調査研究収益	1,464,890	1,419,850	45,040
会誌別刷売上	286,000	227,335	58,665
広告収益	161,333	190,666	△ 29,333
書籍収益	612,597	228,550	384,047
支部収益	1,400,000	1,400,000	0
会誌掲載料	1,153,229	1,223,416	△ 70,187
受取寄付金	[0]	[400]	[△ 400]
受取寄付金	0	400	△ 400
雑収益	[1,103,484]	[104,060]	[999,424]
受取利息	2,648	1,315	1,333
雑収益	1,100,836	102,745	998,091
経常収益計	53,588,216	49,204,618	4,383,598
(2) 経常費用			
事業費	[42,014,282]	[31,144,386]	[10,869,896]
給料手当	9,754,728	8,341,130	1,413,598
講演講習会運営費	4,397,840	76,048	4,321,792
旅費交通費	1,189,488	53,427	1,136,061
通信運搬費	790,528	737,089	53,439
調査研究費	172,290	364,890	△ 192,600
消耗品費	188,450	10,929	177,521
印刷製本費	8,793,255	8,819,631	△ 26,376
支部費	1,400,000	1,400,000	0
広告宣伝費	18,806	0	18,806
借室費	3,222,912	3,222,912	0
保険料	2,600	0	2,600
会議費	89,440	40,000	49,440
諸謝金	2,022,126	1,575,663	446,463
租税公課	1,250	4,000	△ 2,750
分析費	2,002,110	1,826,550	175,560
安息香酸費	2,354,880	2,952,576	△ 597,696
雑費	2,221,773	1,612,942	608,831
出入金手数料	129,980	106,599	23,381
100周年記念事業費	3,261,826	0	3,261,826
管理費	[15,245,294]	[15,952,866]	[△ 707,572]
給料手当	4,180,598	3,574,771	605,827
派遣手数料	0	1,955,546	△ 1,955,546

科　　目	(A) 当年度	(B) 前年度	(A－B) 増　減
社会保険料	1,603,964	1,418,471	185,493
退職給付費用	445,000	447,800	△ 2,800
労働保険料	176,917	157,471	19,446
福利厚生費	20,938	7,119	13,819
会議費	657,178	558,100	99,078
旅費交通費	1,459,740	1,061,668	398,072
通信運搬費	1,166,599	1,365,648	△ 199,049
消耗品費	83,097	70,881	12,216
印刷製本費	683,024	486,075	196,949
光熱水料費	299,707	282,548	17,159
借室費	1,381,248	1,381,248	0
保険料	7,080	7,080	0
租税公課	582,975	788,569	△ 205,594
雑費	2,497,229	2,389,871	107,358
出入金手数料	[62,898]	[67,232]	[△ 4,334]
経常費用計	57,322,474	47,164,484	10,157,990
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 3,734,258	2,040,134	△ 5,774,392
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 3,734,258	2,040,134	△ 5,774,392
2．経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
過年度損益修正損	[150,000]	[0]	[150,000]
経常外費用計	150,000	0	150,000
当期経常外増減額	△ 150,000	0	△ 150,000
当期一般正味財産増減額	△ 3,884,258	2,040,134	△ 5,924,392
一般正味財産期首残高	62,632,587	60,592,453	2,040,134
一般正味財産期末残高	58,748,329	62,632,587	△ 3,884,258
Ⅱ　指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ　正味財産期末残高	58,748,329	62,632,587	△ 3,884,258

正味財産増減計算書内訳表

2022年 1月 1日から2022年12月31日まで

一般社団法人日本エネルギー学会

（単位：円）

科目	実施事業会計		その他事業会計				法人会計	合計
	会誌発行	表彰事業	講演講習会	依頼分析	調査研究	書籍	法人会計	
Ⅰ 一般正味財産増減の部								
1．経常増減の部								
(1) 経常収益								
受取会費	0	0	7,815,135	234,454	0	1,172,270	22,038,681	31,260,540
維持会員受取会費	0	0	7,815,135	234,454	0	1,172,270	12,328,141	21,550,000
賛助会員受取会費	0	0	0	0	0	0	1,876,000	1,876,000
正会員受取会費	0	0	0	0	0	0	7,834,540	7,834,540
事業収益	1,500,562	0	11,979,923	5,613,080	1,464,890	565,737	0	21,224,192
講演講習会収益	0	0	10,403,063	0	0	0	0	10,403,063
分析収益	0	0	0	2,669,480	0	0	0	2,669,480
100周年記念事業収益	0	0	130,000	0	0	0	0	130,000
安息香酸収益	0	0	0	2,943,600	0	0	0	2,943,600
調査研究収益	0	0	0	0	1,464,890	0	0	1,464,890
会誌別刷売上	286,000	0	0	0	0	0	0	286,000
広告収益	161,333	0	0	0	0	0	0	161,333
書籍収益	0	0	46,860	0	0	565,737	0	612,597
支部収益	0	0	1,400,000	0	0	0	0	1,400,000
会誌掲載料	1,153,229	0	0	0	0	0	0	1,153,229
雑収益	7,722	42,912	3,224	33,330	0	13,711	1,002,585	1,103,484
受取利息	0	12	51	0	0	0	2,585	2,648
雑収益	7,722	42,900	3,173	33,330	0	13,711	1,000,000	1,100,836
経常収益計	1,508,284	42,912	19,798,282	5,880,864	1,464,890	1,751,718	23,041,266	53,588,216
(2) 経常費用								
事業費	12,101,302	1,415,135	18,495,090	5,303,168	3,786,913	912,674	0	42,014,282
給料手当	1,393,533	696,766	4,180,598	696,766	2,090,299	696,766	0	9,754,728
講演講習会運営費	0	0	4,397,840	0	0	0	0	4,397,840
旅費交通費	0	1,880	1,187,608	0	0	0	0	1,189,488
通信運搬費	555,656	34,203	131,415	13,594	55,660	0	0	790,528
調査研究費	0	0	0	0	172,290	0	0	172,290
消耗品費	0	0	188,450	0	0	0	0	188,450
印刷製本費	8,165,201	0	642,354	0	0	△ 14,300	0	8,793,255
支部費	0	0	1,400,000	0	0	0	0	1,400,000
広告宣伝費	0	0	18,806	0	0	0	0	18,806
借室費	460,416	230,208	1,381,248	230,208	690,624	230,208	0	3,222,912
保険料	0	0	2,600	0	0	0	0	2,600
会議費	0	0	89,440	0	0	0	0	89,440
諸謝金	932,000	0	1,070,126	0	20,000	0	0	2,022,126
租税公課	0	0	1,250	0	0	0	0	1,250
分析費	0	0	0	2,002,110	0	0	0	2,002,110
安息香酸費	0	0	0	2,354,880	0	0	0	2,354,880
雑費	545,040	451,418	474,215	0	751,100	0	0	2,221,773
出入金手数料	49,456	660	67,314	5,610	6,940	0	0	129,980
100周年記念事業費	0	0	3,261,826	0	0	0	0	3,261,826
管理費	0	0	0	0	0	0	15,245,294	15,245,294
給料手当	0	0	0	0	0	0	4,180,598	4,180,598
社会保険料	0	0	0	0	0	0	1,603,964	1,603,964
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	445,000	445,000
労働保険料	0	0	0	0	0	0	176,917	176,917
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	20,938	20,938
会議費	0	0	0	0	0	0	657,178	657,178
旅費交通費	0	0	0	0	0	0	1,459,740	1,459,740
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	1,166,599	1,166,599
消耗品費	0	0	0	0	0	0	83,097	83,097
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	683,024	683,024
光熱水料費	0	0	0	0	0	0	299,707	299,707
借室費	0	0	0	0	0	0	1,381,248	1,381,248
保険料	0	0	0	0	0	0	7,080	7,080
租税公課	0	0	0	0	0	0	582,975	582,975
雑費	0	0	0	0	0	0	2,497,229	2,497,229
出入金手数料	0	0	0	0	0	0	62,898	62,898
経常費用計	12,101,302	1,415,135	18,495,090	5,303,168	3,786,913	912,674	15,308,192	57,322,474
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 10,493,018	△ 1,372,223	1,303,192	577,696	△ 2,322,023	839,044	7,733,074	△ 3,734,258
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 10,493,018	△ 1,372,223	1,303,192	577,696	△ 2,322,023	839,044	7,733,074	△ 3,734,258
2．経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
過年度損益修正損	0	150,000	0	0	0	0	0	150,000
経常外費用計	0	150,000	0	0	0	0	0	150,000
当期経常外増減額	0	△ 150,000	0	0	0	0	0	△ 150,000
当期一般正味財産増減額	△ 10,493,018	△ 1,522,223	1,303,192	577,696	△ 2,322,023	839,044	7,733,074	△ 3,884,258
一般正味財産期首残高	△ 160,617,756	△ 14,138,552	65,763,813	3,972,770	△ 10,775,181	13,855,230	164,572,263	62,632,587
一般正味財産期末残高	△ 171,110,774	△ 15,660,775	67,067,005	4,550,466	△ 13,097,204	14,694,274	172,305,337	58,748,329
Ⅱ 指定正味財産増減の部								
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高	△ 171,110,774	△ 15,660,775	67,067,005	4,550,466	△ 13,097,204	14,694,274	172,305,337	58,748,329

財産目録

2022年12月31日現在

一般社団法人日本エネルギー学会

（単位：円）

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
（流動資産）				
	現金	手元保管	運転資金として	867,918
	預金	普通預金		18,860,178
		三菱UFJ銀行1772623		7,122,961
		三井住友銀行7469252		6,789,463
		三菱UFJ銀行1772610		660,276
		三菱UFJ銀行2129006		2,901,571
		三菱UFJ銀行2129077		1,385,907
		振替預金		4,877,179
		支部現金預金		6,516,280
		関西支部勘定		2,732,275
		西部支部勘定		1,876,969
		北海道支部勘定		804,007
		東北支部勘定		1,103,029
		定期預金		10,023,464
		三井住友銀行1380004		10,023,464
	売掛金			1,946,188
	未収金			1,631,100
	前払金			388,080
	棚卸資産			1,616,821
	立替金			△ 3,880
流動資産合計				46,723,328
（固定資産）				
基本財産				
	基本財産引預金	（定期）三菱UFJ銀行		200,000
特定資産				
	退職給付引預金	（普通）三菱UFJ銀行		4,600,800
	会費補填引預金	（定期）三菱UFJ銀行		9,500,000
その他固定資産				
	電話加入権			30,550
	借室保証金			3,488,000
固定資産合計				17,819,350
資産合計				64,542,678
（流動負債）				
	未払金			172,290
	預り金			549,072
	給与等源泉徴収			480,446
	諸謝金源泉徴収			68,626
	未払法人税等			70,000
	未払消費税等			402,187
流動負債合計				1,193,549
（固定負債）				
	退職給付引当金			4,600,800
固定負債合計				4,600,800
負債合計				5,794,349
正味財産				58,748,329

予算対比正味財産増減計算書

2022年 1月 1日から2022年12月31日まで

一般社団法人日本エネルギー学会

(単位：円)

科目	(A) 予算額	(B) 決算額	(A－B) 差異
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1．経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	[31,747,200]	[31,260,540]	[486,660]
維持会員受取会費	21,500,000	21,550,000	△ 50,000
賛助会員受取会費	1,860,000	1,876,000	△ 16,000
正会員受取会費	8,387,200	7,834,540	552,660
事業収益	[14,370,000]	[21,224,192]	[△ 6,854,192]
講演講習会収益	6,000,000	10,403,063	△ 4,403,063
分析収益	400,000	2,669,480	△ 2,269,480
100周年記念事業収益	0	130,000	△ 130,000
安息香酸収益	3,300,000	2,943,600	356,400
調査研究収益	1,100,000	1,464,890	△ 364,890
会誌別刷売上	300,000	286,000	14,000
広告収益	270,000	161,333	108,667
書籍収益	400,000	612,597	△ 212,597
支部収益	1,400,000	1,400,000	0
会誌掲載料	1,200,000	1,153,229	46,771
雑収益	[130,000]	[1,103,484]	[△ 973,484]
受取利息	2,000	2,648	△ 648
雑収益	128,000	1,100,836	△ 972,836
経常収益計	46,247,200	53,588,216	△ 7,341,016
(2) 経常費用			
事業費	[23,343,000]	[42,014,282]	[△ 18,671,282]
給料手当	0	9,754,728	△ 9,754,728
講演講習会運営費	880,000	4,397,840	△ 3,517,840
旅費交通費	300,000	1,189,488	△ 889,488
通信運搬費	735,000	790,528	△ 55,528
調査研究費	0	172,290	△ 172,290
消耗品費	10,000	188,450	△ 178,450
印刷製本費	8,730,000	8,793,255	△ 63,255
支部費	1,400,000	1,400,000	0
広告宣伝費	0	18,806	△ 18,806
借室費	0	3,222,912	△ 3,222,912
保険料	0	2,600	△ 2,600
会議費	50,000	89,440	△ 39,440
諸謝金	1,600,000	2,022,126	△ 422,126
租税公課	0	1,250	△ 1,250
分析費	300,000	2,002,110	△ 1,702,110
安息香酸費	2,640,000	2,354,880	285,120
雑費	1,600,000	2,221,773	△ 621,773
出入金手数料	98,000	129,980	△ 31,980
100周年記念事業費	5,000,000	3,261,826	1,738,174
管理費	[27,757,000]	[15,245,294]	[12,511,706]
給料手当	13,400,000	4,180,598	9,219,402
社会保険料	1,600,000	1,603,964	△ 3,964
退職給付費用	450,000	445,000	5,000
労働保険料	250,000	176,917	73,083

科　　目	(A) 予算額	(B) 決算額	(A－B) 差　異
福利厚生費	50,000	20,938	29,062
会議費	600,000	657,178	△ 57,178
旅費交通費	1,200,000	1,459,740	△ 259,740
通信運搬費	1,500,000	1,166,599	333,401
消耗品費	100,000	83,097	16,903
印刷製本費	500,000	683,024	△ 183,024
光熱水料費	300,000	299,707	293
借室費	4,600,000	1,381,248	3,218,752
保険料	7,000	7,080	△ 80
諸謝金	50,000	0	50,000
租税公課	650,000	582,975	67,025
雑費	2,500,000	2,497,229	2,771
出入金手数料	[100,000]	[62,898]	[37,102]
経常費用計	51,200,000	57,322,474	△ 6,122,474
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 4,952,800	△ 3,734,258	△ 1,218,542
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 4,952,800	△ 3,734,258	△ 1,218,542
2．経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
過年度損益修正損	[0]	[150,000]	[△ 150,000]
経常外費用計	0	150,000	△ 150,000
当期経常外増減額	0	△ 150,000	150,000
当期一般正味財産増減額	△ 4,952,800	△ 3,884,258	△ 1,068,542
一般正味財産期首残高	62,632,587	62,632,587	0
一般正味財産期末残高	57,679,787	58,748,329	△ 1,068,542
Ⅱ　指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ　正味財産期末残高	57,679,787	58,748,329	△ 1,068,542

※【配賦前の合計額】

科目	(A) 予算額	(B) 決算額	(A－B) 差異
給料手当	13,400,000	13,935,326	△ 535,326
借室費	4,600,000	4,604,160	△ 4,160

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

平成22年12月期から「公益法人会計基準」(平成20年4月11日　平成21年10月16日改正　内閣府公益認定等委員会)を採用している。

(1)　資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、売掛金、未収金、前払金、棚卸資産、立替金、仮払金、買掛金、未払金、前受金、預り金、仮受金、未払法人税等及び未払消費税等を含めている。

(2)　退職給付引当金

職員の退職給付に備えるため、当事業年度以降において発生すると認められる債務額を計上している。

(3)　棚卸資産の評価基準及び評価方法

当事業年度末における会誌及び書籍の在庫額を計上している。

(4)　消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 正味財産に含まれる資産及び負債の内訳

(単位：円)

科　目	前期末残高	当期末残高
基本財産	200,000	200,000
電話加入権	30,550	30,550
借室保証金	3,488,000	3,488,000
退職給付引当預金	4,155,800	4,600,800
会費補填引当預金	9,500,000	9,500,000
合　計	17,374,350	17,819,350
現金預金	47,701,064	41,145,019
売掛金	390,591	1,946,188
未収金	1,291,400	1,631,100
前払金	583,929	388,080
棚卸資産	1,565,327	1,616,821
立替金	1,207	-3,880
仮払金	0	0
合　計	51,533,518	46,723,328
退職給付引当金	4,155,800	4,600,800
合　計	4,155,800	4,600,800
買掛金	0	0
未払金	364,890	172,290
前受金	847,000	0
預り金	398,189	549,072
仮受金	0	0
未払法人税等	70,000	70,000
未払消費税等	439,402	402,187
合　計	2,119,481	1,193,549
正味財産	62,632,587	58,748,329

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は，次のとおりである。

（単位：円）

科　目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
基本財産引当預金	200,000	0	0	200,000
小　計	200,000	0	0	200,000
特定資産				
退職給付引当預金	4,155,800	445,000	0	4,600,800
会費補填引当預金	9,500,000	0	0	9,500,000
小　計	13,655,800	445,000	0	14,100,800
合　計	13,855,800	445,000	0	14,300,800

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は，次のとおりである。

（単位：円）

科　目	当期末残高	（うち指定正味財産からの充当額）	（うち一般正味財産からの充当額）	（うち負債に対応する額）
基本財産				
基本財産引当預金	200,000	0	200,000	0
小　計	200,000	0	200,000	0
特定資産				
退職給付引当預金	4,600,800	0	4,600,800	4,600,800
会費補填引当預金	9,500,000	0	9,500,000	0
小　計	14,100,800	0	14,100,800	4,600,800
合　計	14,300,800	0	14,300,800	4,600,800

附　属　明　細　書

1. 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産については、財務諸表の注記において記載をしている。

2. 引当金の明細

引当金については、財務諸表の注記において記載をしている。

監 査 報 告 書

一般社団法人　日本エネルギー学会
会　長　　齋藤　公児　殿

2023 年 1 月 18 日

監　事　　島田 秀顕

監　事　　水本 明彦

私は、2022 年 1 月 1 日から 2022 年 12 月 31 日までの 2022 年会計年度における会計および業務監査を行い、次のとおり報告する。

１．監査の方法の概要

（１）会計監査　　帳簿および関係書類並びに計算書類の正確性を検討した。

（２）業務監査　　理事会およびその他の会議に出席し、理事からの業務報告および関係書類により業務執行の妥当性を検討した。

２．監査意見

（１）貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録は、会計帳簿の記載と一致し、法人の収支状況および財政状態を正しく示していると認める。

（２）事業報告書の内容は事実であると認める。

（３）理事の職務執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する事実はないと認める。

以　上

第 3 号議案　2023･2024 年度理事・監事の承認の件

2023・2024 年度の理事および監事の候補者は次の通りです。

なお、本会定款第 20 条、及び理事、監事及び会長の選出に関する規程第 12 条の候補者の公示に関する規程により学会ホームページにて公示を行い、締切日の 2023 年 1 月 10 日（火）までに異議の申し出はありませんでした。

(一社)日本エネルギー学会　2023･2024年度理事および監事候補者氏名

理　　事(五十音順)					
青木 秀之	東北大学		佐藤 康司	ENEOS(株)	
秋澤 淳	東京農工大学		清水 忠明	新潟大学	
天谷 賢児	群馬大学		鷹觜 利公	(国研)産業技術総合研究所	
安藤 宣明	(一社)日本エネルギー学会		成瀬 一郎	名古屋大学	○
池永 直樹	関西大学		西川 秀昭	大阪ガス(株)	
梶谷 史朗	(一財)電力中央研究所		林 潤一郎	九州大学	
神原 信志	岐阜大学		東 忠幸	日本製鉄(株)	
木本 憲太郎	東京ガス(株)		八木田 浩史	日本工業大学	
児玉 竜也	新潟大学		山下 亨	出光興産(株)	
後藤 章	東京電力ホールディングス(株)		山本 友義	ＪＦＥスチール(株)	
坂西 欣也	(国研)産業技術総合研究所				
監　　事(五十音順)					
白石 裕樹	東芝エネルギーシステムズ(株)		早川 宏	電源開発(株)	

○ 印は会長候補者

第４号議案　2023・2024 年度補欠理事選任の承認の件

2023・2024 年度の補欠理事として次の候補者を承認願います。

１．2022 年度第８回定例理事会（2023 年 1 月 30 日）議決済

日本エネルギー学会　事務局長　上田 巌

第５号議案　2023 年度事業計画ならびに収支予算の承認の件

2023 年度の主たる事業計画

１．指針

当学会は昨年創立 100 周年を迎え、「2050 年カーボンニュートラルに向けたエネルギー・環境問題の解決への貢献」のテーマで 100 周年記念事業を成功裡に終えて、今年は新たに 101 年目を期して学会内外に向けて若い世代への情報発信をより積極的に行っていく。

昨今の世界的なコロナ禍の影響を受けつつも、真に持続可能な社会構築に向けて、地球温暖化防止等の環境保全、エネルギー資源の多様化、エネルギー自給率とコスト、安全性などの観点から、より一層の省エネルギーや資源循環を進めながら、化石エネルギー、再生可能エネルギー、原子力などのエネルギーミックスや対応技術を最適化することは、日本のエネルギー・環境政策に課せられた大きな課題である。特に、2020 年 10 月、政府は 2050 年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指すと発表し、エネルギー基本計画の更なる見直しの中で電力の非化石化のみならず、運輸・産業界等でもより一層の化石資源使用の低減によって 2050 年カーボンニュートラルを実現するロードマップを提示することが喫緊の最重要課題となっている。

このような情勢の中、エネルギーに関連する各分野において、専門的かつ幅広い情報、人脈を有する当学会は、「環境の時代における化石資源と再生可能エネルギーのそれぞれの役割とそれを支える技術」に関する情報発信が大切である。学会活性化の要諦は部会および支部の活性化が基本であり、会員および社会の要望に対応するために、学会の委員会、部会、支部の活動の更なる活性化と共に積極的に若い世代への情報発信を行い、諸課題の解決に貢献していく。財務・運営タスクフォースの提言に沿って財務を強化しつつ、諸活動を進める。

２．委員会・部会・支部の活動方針および行事計画等

（１）委員会活動方針

委員会	活動方針
企画委員会	①　部会・支部と連携し、活発な学会活動を推進するための方策を検討する。 ②　産・官・学や他学会と連携を図り、地球環境問題などの課題への対応を検討する。 ③　会員特典をより使いやすくするため、会員へのサービスの改善を検討する。 ④　理事会、会員増強委員会と連携し、会員サービスの向上および会員の拡充を推進する。 ⑤　ホームページの充実やメディア対応など積極的な広報活動を推進する。
総務委員会	①　一般社団法人に対応したガバナンスの向上（規程の制定や見直し等）を図る。 ②　学会の運営について随時必要な改善を図る。 ③　規程に沿って、事務局の人事体制を効率化、強化を図る。
財務委員会	①　学会経営の健全性を確認しながら、新型コロナウィルスの感染防止対策を含め、急速に変化する経営環境下での厳しい経済環境に対応して今後の安定的運営策を策定する。 ②　財務・運営タスクフォースのフォローの実施を通じて、財務収支の黒字基調を継続する。安定運営に必要な正味財産を確保する。
表彰委員会	①　表彰委員会において、応募件数増に繋がるよう対策を検討する。特に維持会員の新技術が応募対象になるよう周知方法等を検討する。 ②　功績賞、技術部門の候補については応募が広がるように検討する。功績賞については、学会への功績度の基準化・見える化を行い、幅広く受賞候補者の推薦を行えるようにする。 ③　必要に応じて表彰規程および表彰規程実施要領を改訂し、選考を適切に実施し、より有意義な表彰を行う。 ④　表彰の応募・選考関連書類のペーパーレス化を推進する。

委員会	活動方針
会員増強委員会	① 会員にとってより魅力ある学会にする為の具体策について理事会、企画委員会と連携して検討し実施する。 ② エネルギー、環境に関連する各種団体、企業等の入会勧誘策を検討して実施する。 ③ 会員増強を理事の協力のもと具体的に進める。
編集委員会	① 学会誌の２誌体制に対応した編集方針に基づき、各誌編集小委員会において会誌の一層の充実を図る。 ② 各部会との連携（特集記事／トピックス、講座の企画など）を強化する。 ③ Annual Energy Reviews 号（9 月号）の各分野の内容を充実して継続する。 ④ 機関誌えねるみくすの全記事を J-STAGE に掲載する。 ⑤ インパクトファクター取得等について検討を引き続き進める。
出版委員会	① 各種図書のタイムリーな出版に向けて、編集小委員会、各編集WG・執筆者・出版会社・学会事務局との調整を図りながら推進する。 ② 学会誌の特集記事、講座等を活用して出版への企画を行う。
国際委員会	① 学会の各種企画や年次大会において、各部会等と協力しながら海外からの講演を推進する。 ② アジア・太平洋地区の関係者と情報交換を通じて協力・連携を図る。 ③ アジアバイオマス科学会議など、国際会議の企画・運営を推進する。
大会実行委員会	① 第32回年次大会を円滑に推進する。なお、新型コロナウィルスの感染状況に対応して安全・衛生に配慮したオンライン開催やハイブリッド開催などの手段も講じる。 ② 大会の中でタイムリーな内容の特別講演、基調講演等を企画、実施する。 ③ 大会の中で論文賞の表彰を行い、学会誌への論文投稿を促す。 ④ 大会の中で幹事会の開催など各部会の活動を促す。

（2）部会活動方針および行事計画等

部会	活動方針	行事計画等
石炭科学部会	① 石炭科学会議の活性化を図るため、石炭および炭素資源の研究・技術開発の他、カーボンリサイクル分野を取り入れて積極的に活動を推進する。 ② 若手研究者・技術者への技術の継承を目的として、石炭科学会議特別セミナー「石炭の研究・技術開発に取り組んで-わたしの自慢-」を企画する。 ③ 石炭・炭素資源有効利用研究会、JCOAL、NEDO等との連携を通して、若手石炭研究者や技術者の人材育成を推進する。	① 第 60 回石炭科学会議（10 月中を予定、京都）を石炭・炭素資源有効利用研究会と合同開催、テクニカルツアーを実施予定。 ② サイドイベントとして特別企画～セミナー「石炭の研究・技術開発にとりくんで―わたしの自慢―」（上記会議前日、京都）を実施予定。 ③ 実行委員会・幹事会の開催（4 月、8 月、10 月）。

部会	活動方針	行事計画等
コークス工学研究部会	① コークス工学の深化と製造･利用技術の革新のための議論交換の場を提供する。 ② コークス生産技術の深化と関連産業への技術トランスファーおよび石炭資源の有効利用技術について議論する。 ③ 石炭科学部会との連携により、石炭科学会議への研究発表と勧誘活動を行う。 ④ コークス・ノートの発刊により、コークス工学に関する情報の発信と部会員の増加に努める。 ⑤ コークス工学における若手の研究者と技術者間の交流・討議の場を設けて活性化を図る。	① 第60回石炭科学会議（10月中を予定、京都）を石炭科学部会と共同開催。「コークス」セッションの企画、運営、サイドイベントの共催。 ② 実行委員会・幹事会の開催（4月、8月、10月)。 ③ 機関誌Annual Energy Reviews号（9月号）の「コークス」執筆。
重質油部会	① 産学官連携を通じた重質油関連の技術開発、特に重質油有効利用拡大を目指した活動を図る。 ② 重質油およびハイドロカーボノミクスの将来の用途、適用可能な要素技術と課題のリストアップを行う。 重質油の動向に関する情報収集と発信を図る。	① 第60回石炭科学会議（10月末、京都）の共催。「重質油」セッションの企画・運営。 ② ハイドロカーボノミクスの用途、要素技術に関する勉強会の開催。 ③ 実行委員会･幹事会の開催（4月、8月、10月)。
天然ガス部会	① 我が国の基幹エネルギーの１つである天然ガスの利用拡大を更に進め、ガス体エネルギーのカーボンニュートラル・イノベーションを加速するため、資源開発･利用、輸送･貯蔵、科学･反応システムの３つの分科会において情報交換・情報提供を推進する。 ② 分科会に加え、非在来型天然ガスとして注目されているＧＨ（ガス・ハイドレート）等に係る研究会において、情報交換及び研究活動を行っていく。 ③ 各分科会及び研究会では、研究発表、シンポジウム、講習会、見学会等の活動を、部会メンバー（及び関心を持つ人達）の情報の共有や交流を深めていく。 機関紙「えねるみくす」に関連の記事掲載を企画していく。	① 部会全体：部会員のための部会メールによる情報提供を行っていく。 ② 分科会：見学会、講演会等を実施する。 ① 研究会：研究会等を実施する。

部会	活動方針	行事計画等
バイオマス部会	① バイオマス関連の情報交換、情報発信の場とする部会としての目的を遂行する。	① 年次大会(8 月)にて総会の開催。 ② 夏の学校(9 月頃予定)。 ③ 第 19 回バイオマス科学会議、第 11 回アジアバイオマス科学会議（12 月）実施。 ④ バイオマス関連部会・研究会合同交流会の開催。 ⑤ 三部会（RGB）シンポジウム（ガス化部会・リサイクル部会と合同)。 ⑥ アジア・バイオマス協議会への協力。 ホームページの拡充、ホームページへの広告募集、出版、編集への協力、受託調査等への協力。
新エネルギー・水素部会	① 学会内において新エネルギー・水素関連技術開発(再生可能エネルギー、未利用エネルギー、水素エネルギー等の利用に関する技術開発)に関連する研究の促進や活性化を図る。 ② セミナー開催やメーリングリスト等を通して、上記の研究分野の最新研究動向を発信し、研究者間の情報交換や交流を行う。 ③ 上記の研究を行っている関係者で日本エネルギー学会に加入していない方々の学会への入会を促す。 ① 年次大会での会員の研究発表を積極的に行うと共に、学会への加入を促しつつ非会員へも発表を勧誘する。	① 新エネルギーや水素関連技術のセミナー・見学会の開催。 ② 水素エネルギーに関する本の出版に向けた協議。 ③ 総説特集の企画。 ② 年次大会(8 月)への積極的な研究発表ならびに参加者勧誘。 ③ 新エネルギー・水素エネルギー技術の開発や促進を行っている他団体との交流、特に世界水素エネルギー会議を積極的な交流の場として活用する。 ④ 新エネルギー及び水素に関する特集号、連載講座、カーボンニュートラルにつながる新エネルギー、及び水素に関連する講演会の実施。 ⑤ 部会ホームページの更新・拡充。 ⑥ メーリングリストによる情報発信。
ガス化部会	① シンポジウムを年２回開催し、リサイクル部会、バイオマス部会との合同（RGB シンポジウム）およびバイオマス部会と合同（バイオマス科学会議）とする。 ② 見学会、勉強会等を適時開催し、他部会および他学協会との連携も視野に入れる。	① 幹事会 ② 三部会（RGB）シンポジウム（リサイクル部会、バイオマス部会と合同）(6/8) ③ 100 周年記念事業：えねるみくす連載企画１月～(７回予定) ④ 見学会を秋頃計画中 ⑤ バイオマス科学会議（バイオマス部会と合同、共催)
燃焼部会	① 気候変動問題に対応する実践的な燃焼技術の調査を行ない、燃焼技術者を育成する。 ② 燃焼技術や環境技術に関連する講演会、エネルギー学会大会への発表を通して、社会への啓蒙や貢献を行う。 ③ 若年層の学会への加入や講習会への参加を促進する。	① 燃焼の基礎に関する講習会の開催（7 月頃、オンデマンド講習会あるいは実地講習会)。 ② 大会でのセッションの企画。 ③ 大会等における燃焼に関する基調講演の企画・開催。 ④ 燃焼に関する見学会の企画・検討及び実施。 ⑤ 幹事会開催。

部会	活動方針	行事計画等
液体微粒化部会	① 会員へのフィードバックおよび部会委員参画のメリットに重点をおいた方向で部会活動を進める。 ② 会誌「えねるみくす」へ向けた微粒化関連記事の協力を行う。	① 第 17 回微粒化セミナー（開催時期未定、日本液体微粒化学会と共同主催)。 ② 第 32 回微粒化シンポジウム（12 月、日本液体微粒化学会と共同主催)。 ③ 部会委員会（年 3 回程度)。 部会関連行事の企画、えねるみくすへの協力、日本液体微粒化学会との連携等を検討する。
リサイクル部会	① 部会企画行事により情報収集、情報交流の場を設ける。 ② 部会活動の成果をまとめ、社会に提言する。 ③ 循環型社会構築に資する活動を行う。 ④ 他の部会や学会との連携による活動を行う。	① 部会・幹事会の開催年(3回程度)。 ② 「廃プラスチックの科学と技術」(100周年記念事業、2023年1月発刊)および機関誌(7月号)への特集号掲載。 ③ 部会主催講演会や見学会(廃棄物資源循環学会やプラスチックリサイクル化学研究会と共同開催予定)。 ④ 三部会（RGB）シンポジウム(ガス化部会・バイオマス部会と合同)(5月)。
省エネルギー・ 消費者行動部会	① 省エネルギーセンター等との連携を強化し、下記活動方針に沿った活動を行う。 ② 環境と調和した新しいエネルギー需給構造、社会システムの構築に向けて検討を進める。 ③ 省エネルギー技術者、研究者の連携推進、省エネルギー技術シーズの「実用化」、「導入・普及」の促進への貢献を目指す。	① EECB公開セミナー（省エネ、消費者行動関連）や見学会の開催。 ② 「エネルギー学」部会及び他部会との連携講演会や見学会の開催。 ③ 年次大会における省エネルギー・消費者行動部会セッションの開催。 ④ 幹事会（年3回程度）。
「エネルギー学」部会	① シンポジウム（セミナー）や施設見学会の開催：他学会、他部会との共催も含めて、シンポジウム（セミナー）を開催していく。 ② エネルギー政策に関する意見交換を行う。 ③ エネルギー知識の啓蒙：エネルギー知識啓蒙のための単行本の出版を検討する。	① シンポジウム（セミナー）や施設見学会の開催。 ・カーボンニュートラル実現に向けた技術開発や製造業の取り組みに関する施設見学会を検討中。 ・地域における再生可能エネルギー資源の有効活用事例に関する施設見学会を検討中。 ・その他シンポジウム(セミナー)・見学会の開催を検討中。 ② 他部会、他学会とのセミナー・セッションの共催。 ③ 年次大会における「エネルギー学」セッションの開催。 ④ エネルギー・資源学会と共同でエネルギー検定の問題の改定を検討する。エネルギー知識普及のための単行本の出版の検討。 ⑤ 幹事会(年 3 回程度)。

部会	活動方針	行事計画等
若手研究者の勉強会	① 産・学・官における若手研究者が意見交換できる場を提供し、懇親を深め、今後の研究・開発を合目的かつスムーズに進めていくための研究者間の人と知識の有機的なネットワークを構築していく。	① 勉強会の開催（8 月年次大会期間中）。 ② 幹事会（年 1～2 回程度)。

（3）支部活動方針および行事計画等

支部	活動方針	行事計画等
北海道支部	① 北海道内の関連機関の実態を踏まえ、地域性を生かした「エネルギー・資源・環境」に関わる主催行事を開催する。 ② 北海道内の他の学協会等との有機的連携ならびに各種事業の共催・協賛を積極的に推し進め、支部会員への情報発信の強化を図る。	① 第 23 回北海道エネルギー資源環境講演会及び施設見学会 (9 月開催：会場未定）。 ② 日本化学会北海道支部 2023 年夏季研究発表会（共催)。 ③ 第 12 回エネルギー・マテリアル融合領域シンポジウム（協賛)。 ④ 幹事会・総会（1 月：ハイブリッド開催)。 ③ 庶務幹事会 (奇数月)。
東北支部	① エネルギーに関わる講演会や研究会を企画開催する。 ② 東北・新潟地区における産学官の連携を促進する。 ③ 他の学協会との連携や共催を進める。	① 講演会および見学会の開催(10 月下旬～11 月中旬(予定)) ② 他関連学協会との共催行事。 ・火力原子力発電技術協会東北支部令和 4 年度技術講演会(協賛) ・秋田化学工学懇話会 第 54 回・第 55 回ケミカルエンジアリング交流会(秋田市, 協賛) ・学都「仙台・宮城」サイエンスデイ 2023（仙台市, 名義後援) ・化学工学会東北支部 第 28 回東北ジョイント夏季セミナー(協賛) ・火力原子力発電技術協会東北支部令和 4 年度技術講習会（協賛) ・火力原子力発電技術協会東北支部令和 4 年度研究発表会（協賛) ・第 14 回製鉄・資源に関する Workshop (還元研究会)(共催) ③ 役員会(5 月, 11 月(予定))。

支部	活動方針	行事計画等
関西支部	① 石炭、重質油のみならずバイオマス等の新エネルギーも含めたセミナー等を通して横断的にエネルギーに関する情報と討論の場を提供する。 ② エネルギー源のみならず省エネルギーなどのエネルギーの有効な使用方法に関する情報の場を提供する。	① 見学会(7月)。 ② 「エネルギーの未来を担う若手のためのコロキウム2023」(石油学会関西支部共催)(8月)。 ③ 第39回セミナー(10月)(石油学会関西支部共催)。 ④ 第68回研究発表会(石油学会関西支部共催)(12月)。 ⑤ 幹事会(1月、4月、7月、10月)
西部支部	① 石炭、水素、バイオマスをキーワードとしたシンポジウム、セミナーを継続 ② 九州経済産業局殿と連携し、西部支部の地域性を生かしたセミナーの企画 ③ 地域の学生・若手の育成および研究活動の活性化のため、学生・若手研究発表会を実施 ④ 九州大学グリーンテクノロジー研究教育センター殿等と連携し、海外への CCT 技術移転などを見据えた勉強会、セミナーを通じて知識の深化を図る。 ⑤ 地域のエネルギーをキーワードとした新たな取組み方針を検討 ⑥ 他学会(石油学会、機械工学会、化学工学会等)の関連支部との連携により学会活動を活性化	① 低炭素システム研究会(共催、6 月) ② 講演会および見学会の開催(6 月) ③ 支部企画研究発表会の開催(11 月) ④ 他学会関連支部行事の協賛 ⑤ 役員会(3 月、8 月、11 月)

収支予算書

2023年 1月 1日から2023年12月31日まで

一般社団法人日本エネルギー学会

(A)　(B)　(A－B)　(単位：円)

科　　目	予算額	前年度予算額	増　減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1．経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	[31,155,800]	[31,747,200]	[△ 591,400]
維持会員受取会費	21,300,000	21,500,000	△ 200,000
賛助会員受取会費	1,780,000	1,860,000	△ 80,000
正会員受取会費	8,075,800	8,387,200	△ 311,400
事業収益	[26,170,000]	[14,370,000]	[11,800,000]
講演講習会収益	11,000,000	6,000,000	5,000,000
分析収益	1,100,000	400,000	700,000
安息香酸収益	3,100,000	3,300,000	△ 200,000
調査研究収益	1,100,000	1,100,000	0
会誌別刷売上	300,000	300,000	0
広告収益	1,920,000	270,000	1,650,000
書籍収益	5,050,000	400,000	4,650,000
支部収益	1,400,000	1,400,000	0
会誌掲載料	1,200,000	1,200,000	0
雑収益	[130,000]	[130,000]	[0]
受取利息	2,000	2,000	0
雑収益	128,000	128,000	0
経常収益計	57,455,800	46,247,200	11,208,600
(2) 経常費用			
事業費	[28,696,000]	[23,343,000]	[5,353,000]
講演講習会運営費	4,400,000	880,000	3,520,000
旅費交通費	1,402,000	300,000	1,102,000
通信運搬費	1,154,000	735,000	419,000
消耗品費	190,000	10,000	180,000
印刷製本費	12,380,000	8,730,000	3,650,000
支部費	1,400,000	1,400,000	0
広告宣伝費	20,000	0	20,000
会議費	100,000	50,000	50,000
諸謝金	2,020,000	1,600,000	420,000
分析費	825,000	300,000	525,000
安息香酸費	2,480,000	2,640,000	△ 160,000
雑費	2,190,000	1,600,000	590,000
出入金手数料	135,000	98,000	37,000
100周年記念事業費	0	5,000,000	△ 5,000,000
管理費	[28,652,000]	[27,757,000]	[895,000]
給料手当	14,000,000	13,400,000	600,000
社会保険料	1,600,000	1,600,000	0
退職給付費用	445,000	450,000	△ 5,000
労働保険料	250,000	250,000	0
福利厚生費	50,000	50,000	0
会議費	700,000	600,000	100,000
旅費交通費	1,500,000	1,200,000	300,000
通信運搬費	1,200,000	1,500,000	△ 300,000
消耗品費	100,000	100,000	0
印刷製本費	700,000	500,000	200,000

科　　目	(A) 予算額	(B) 前年度予算額	(A－B) 増　減
光熱水料費	350,000	300,000	50,000
借室費	4,600,000	4,600,000	0
保険料	7,000	7,000	0
諸謝金	50,000	50,000	0
租税公課	600,000	650,000	△ 50,000
雑費	2,500,000	2,500,000	0
出入金手数料	[100,000]	[100,000]	[0]
経常費用計	57,448,000	51,200,000	6,248,000
評価損益等調整前当期経常増減額	7,800	△ 4,952,800	4,960,600
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	7,800	△ 4,952,800	4,960,600
2．経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	7,800	△ 4,952,800	4,960,600
一般正味財産期首残高	58,748,329	62,632,587	△ 3,884,258
一般正味財産期末残高	58,756,129	57,679,787	1,076,342
Ⅱ　指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ　正味財産期末残高	58,756,129	57,679,787	1,076,342

収支予算書内訳表

2023年 1月 1日から2023年12月31日まで

一般社団法人日本エネルギー学会

（単位：円）

科　　目	実施事業会計		その他事業会計				法人会計	合計
	会誌発行	表彰事業	講演講習会	依頼分析	調査研究	書籍	法人会計	
Ⅰ　一般正味財産増減の部								
1．経常増減の部								
(1) 経常収益								
受取会費	0	0	0	0	0	0	31,155,800	31,155,800
維持会員受取会費	0	0	0	0	0	0	21,300,000	21,300,000
賛助会員受取会費	0	0	0	0	0	0	1,780,000	1,780,000
正会員受取会費	0	0	0	0	0	0	8,075,800	8,075,800
事業収益	1,900,000	0	12,470,000	4,200,000	1,100,000	6,500,000	0	26,170,000
講演講習会収益	0	0	11,000,000	0	0	0	0	11,000,000
分析収益	0	0	0	1,100,000	0	0	0	1,100,000
安息香酸収益	0	0	0	3,100,000	0	0	0	3,100,000
調査研究収益	0	0	0	0	1,100,000	0	0	1,100,000
会誌別刷売上	300,000	0	0	0	0	0	0	300,000
広告収益	400,000	0	20,000	0	0	1,500,000	0	1,920,000
書籍収益	0	0	50,000	0	0	5,000,000	0	5,050,000
支部収益	0	0	1,400,000	0	0	0	0	1,400,000
会誌掲載料	1,200,000	0	0	0	0	0	0	1,200,000
雑収益	8,000	75,000	5,000	30,000	0	10,000	2,000	130,000
受取利息	0	0	0	0	0	0	2,000	2,000
雑収益	8,000	75,000	5,000	30,000	0	10,000	0	128,000
経常収益計	1,908,000	75,000	12,475,000	4,230,000	1,100,000	6,510,000	31,157,800	57,455,800
(2) 経常費用								
事業費	10,360,000	533,000	9,670,000	3,326,000	937,000	3,870,000	0	28,696,000
講演講習会運営費	0	0	4,400,000	0	0	0	0	4,400,000
旅費交通費	0	2,000	1,200,000	0	200,000	0	0	1,402,000
通信運搬費	560,000	40,000	140,000	14,000	60,000	340,000	0	1,154,000
消耗品費	0	0	190,000	0	0	0	0	190,000
印刷製本費	8,200,000	0	650,000	0	0	3,530,000	0	12,380,000
支部費	0	0	1,400,000	0	0	0	0	1,400,000
広告宣伝費	0	0	20,000	0	0	0	0	20,000
会議費	0	0	100,000	0	0	0	0	100,000
諸謝金	1,000,000	0	1,000,000	0	20,000	0	0	2,020,000
分析費	0	0	0	825,000	0	0	0	825,000
安息香酸費	0	0	0	2,480,000	0	0	0	2,480,000
雑費	550,000	490,000	500,000	0	650,000	0	0	2,190,000
出入金手数料	50,000	1,000	70,000	7,000	7,000	0	0	135,000
管理費	0	0	0	0	0	0	28,652,000	28,652,000
給料手当	0	0	0	0	0	0	14,000,000	14,000,000
社会保険料	0	0	0	0	0	0	1,600,000	1,600,000
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	445,000	445,000
労働保険料	0	0	0	0	0	0	250,000	250,000
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	50,000	50,000
会議費	0	0	0	0	0	0	700,000	700,000
旅費交通費	0	0	0	0	0	0	1,500,000	1,500,000
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	1,200,000	1,200,000
消耗品費	0	0	0	0	0	0	100,000	100,000
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	700,000	700,000
光熱水料費	0	0	0	0	0	0	350,000	350,000
借室費	0	0	0	0	0	0	4,600,000	4,600,000
保険料	0	0	0	0	0	0	7,000	7,000
諸謝金	0	0	0	0	0	0	50,000	50,000
租税公課	0	0	0	0	0	0	600,000	600,000
雑費	0	0	0	0	0	0	2,500,000	2,500,000
出入金手数料	0	0	0	0	0	0	100,000	100,000
経常費用計	10,360,000	533,000	9,670,000	3,326,000	937,000	3,870,000	28,752,000	57,448,000
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 8,452,000	△ 458,000	2,805,000	904,000	163,000	2,640,000	2,405,800	7,800
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 8,452,000	△ 458,000	2,805,000	904,000	163,000	2,640,000	2,405,800	7,800
2．経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 8,452,000	△ 458,000	2,805,000	904,000	163,000	2,640,000	2,405,800	7,800
一般正味財産期首残高	△ 171,110,774	△ 15,660,775	67,091,725	4,550,466	△ 13,097,204	14,694,274	172,280,617	58,748,329
一般正味財産期末残高	△ 179,562,774	△ 16,118,775	69,896,725	5,454,466	△ 12,934,204	17,334,274	174,686,417	58,756,129
Ⅱ　指定正味財産増減の部								
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅲ　正味財産期末残高	△ 179,562,774	△ 16,118,775	69,896,725	5,454,466	△ 12,934,204	17,334,274	174,686,417	58,756,129